

研究課題：透析患者におけるオーラルフレイル：有病率の把握と栄養状態との関連の
解明

研究者名：岩崎正則、平野浩彦

所属：東京都健康長寿医療センター研究所

我が国の透析患者は高齢化が進んでいる。高齢透析患者の健康寿命の延伸が大きな課題となっている。透析を実施すると体からアミノ酸が失われ、体蛋白（主に筋肉）の崩壊につながる。またエネルギー補給の不足は体蛋白の消耗を加速させる。特に高齢透析患者の場合には栄養障害となりやすい。一方で、透析患者を含む腎機能低下者では歯周病や口腔乾燥などの口腔の問題が多いことが明らかとなっている。我々は、これまでの研究成果と近年の関連分野での知見をもとに、歯・口腔の健康が透析患者の全身に影響を与える経路として、「口腔の疾患や歯の喪失による口腔機能の低下（オーラルフレイル）が経口摂取状況に影響を与え、結果として透析患者の栄養状態に影響を与える」との経路を設定した。また、我々は、地域在住高齢者において、オーラルフレイルが低栄養状態と関連すること横断研究から明らかにしたが、両者の時間的な前後関係は疫学的に十分に明らかになっていない。

以上から、本研究では透析患者および地域在住高齢者を対象とし、①オーラルフレイルの有病率などの実態把握と②オーラルフレイルが栄養状態に与える影響を解明すること、特に地域在住高齢者においては両者の時間的前後関係を明らかとすること、を目的とした。

福岡県内の透析専門病院の40歳以上の血液透析患者を対象としたデータベース（159名）と東京都健康長寿医療センター研究所が関与する長期コホート（地域在高齢者：東京都板橋区）のデータを収集統合したデータベース（466名）の2つを構築した。血液透析患者の栄養状態に対するオーラルフレイルの影響について、栄養状態（geriatric nutritional risk index ≥ 98 ：栄養リスクなし、92～<98：軽度栄養リスク、92未満：中等度～重度栄養リスク）を目的変数とし、オーラルフレイルを主要な説明変数とする順序ロジスティック回帰分析を用いて検討した。地域在住高齢者のうち、栄養状態に問題のなかった者（Mini Nutritional Assessment®-Short Form [MNA®-SF] スコア12点以上）を2年間追跡した後の低栄養状態の発現（MNA®-SF スコア12点未満）を把握した。低栄養状態の発現に対するオーラルフレイルの影響について、低栄養状態発現を目的変数とし、オーラルフレイルを主要な説明変数とするロジスティック回帰分析を用いて検討した。

データを解析することで以下の知見を得た。

- 血液透析患者ではおよそ3人に2人がオーラルフレイルまたはプレオーラルフレイルであり、口腔機能低下の頻度が高い。
- 血液透析患者におけるプレオーラルフレイル・オーラルフレイルは栄養状態が悪いことと関連している可能性がある。
- 地域在住高齢者において、オーラルフレイルに該当することは、その後の低栄養発現のリスク因子である。

今後は、血液透析患者におけるサンプルサイズを増やすとともに一般化構造方程式モデリング等を用いながら、透析患者の口腔機能が栄養状態に与える影響のさらなる解明に努めていきたい。